

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市中熱田区伝馬一丁目 10-11

第309号
平成21年7月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



日々是好日

【出典】雲門文偃の『雲門広録』。一般には「碧巖録」にて。晴の日も雨の日も楽しい日も辛い日も、全てが人生最良の日であるという意味。

三河幸田町：本光寺
撮影：超空正道

晴れていても
雨が降ろうと
楽しくとも
苦しかりうと

今の自分に
覆い被さる
思いやこだわり
すつきり
放つがよい

それがよい
それでよい

今日という日が
愛でたく
言祝ぐ日となる

今という時が
人生最良の
瞬間となる

お盆 (盂蘭盆会)

暑い夏の行事はいくつもありませんが、ご先祖様をお迎えするお盆は、日本古来の伝統行事で、これからも未長く受け継いでいっていただきたいですので、お祀りの仕方をご紹介させていただきます。本来は、旧暦の七月十三日から十五日の三が日でしたが、昨今、当地方では、八月十三日からというのが主流です。

◆精霊お迎え

ご先祖様のご遺骨が安置されているお墓や菩提寺に、線香・ロウソク・花・お供えを持って、十三日の午前中までにお迎えに行きます。なお、当山の場合、次の日程になります。

- ・平和公園墓地 8月12日
- ・潮音寺位牌堂 8月13日

(時間は午前7時〜午後12時)

◆八月十三日

仏壇の前に、マコモ(湿地に生える草)で編んだ筵を掛けた精霊棚を設けます。一番奥の向かって右側から、没年の古い順に、ご先祖様の位牌を並べて祀ります。

ロウソク・花・

線香を立てる三具足、あるいは五具足(ロウソクと花が一對ずつ)、どんぶり萩の花を添えたもの、お迎え団子(餡付き)を供えます。霊供膳として、祖霊の数の分、薄板の上に皿、オガラ(箸)を用意します。オガラとは皮をはいだ麻の茎のことです。精霊棚の



左右に一对の盆提灯(廻転行灯)、

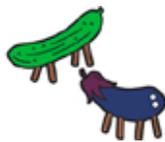


軒先あるいは精霊棚上に岐阜提灯をつるします。



また、蓮の葉の上に、ナス・キュウリを賽の目に切って洗米と混ぜ、一切の有縁無縁の精霊分の供物とします。単に、スイカ・ブドウ・トマト等、季節の作物を盆に盛って供えてもかまいません。

そして、ぜひ作っていただきたいのが、キュウリの馬とナスの牛です。足はオガラを折って用います。由来はいくつかありますが、ご先祖様がこの世に来るときには、キュウリの馬に乗って急いでおいでになり、帰りはナスの牛に乗ってゆっくりお帰りになるという説、お盆が終わりご先祖様がお帰りになるとき、自



分はキュウリの馬に乗り、荷物はナスの牛に載せて帰っていくという説が有力です。ワラで馬と牛を作る場合もあります。

以上のようなお飾りやお供えを午前中に済ませ、夕方に縁側の軒先や精霊棚につるした盆提灯に灯をともします。盆提灯は、ご先祖様の霊が戻ってくるための目印になります。

玄関先では迎え火を焚きます。素焼きの皿にオガラ、あるいは松の割木を折り重ねて燃やします。迎え火の煙に乗って、ご先祖様の霊が戻ってくるのを迎えます。夕食として、豆ご飯・ナスの味噌あえを用意します。

◆八月十四日

【朝】ご飯・カボチャ・ナス・あげ・ササゲの煮付け

【昼】トウガン汁・キュウリモみ

ズイキ

【夕】あげ寿司・(お小遣い)

◆八月十五日

【朝】お小遣いを持ってヤサカのに買い物。献立はなし

【昼】そうめん・スイカ・とこるてん

【夕】ご飯・すまし汁・センゴク豆・焼き豆腐・送り団子(餡なし)

夕方、迎え火をした場所を送り火を焚き、ご先祖様たちを彼岸の国に送ります。精霊棚にお供えしていた物をマコモで包み、精霊送りをします。当地域では、「七里の渡し跡」にお持ちいただく方が多いです。

◆初盆(新盆)

故人の死後、初めて迎える初盆の供養は丁重に営みます。亡くなって四十九日(忌明け)を迎える

前に、お盆が来たときは翌年になります。

初盆に限り、白い提灯を使うのが



が、最近はいつまでも使える色物を調える方も多くなりました。形や柄にきまりはありませんが、秋草模様などが無難です。

◆盆施餓鬼会

死後、特に餓鬼道に堕ちた衆生や三界にさまよう精霊のために、食べ物や法会を施す法会を施餓鬼会といいます。当山では、八月十九日(午後1時30分〜午後2時30分)に厳修いたします。

なお、初盆の場合は、「角袋」を納めます。この袋は晒木綿の正方形の布を三角に折り、一辺を縫い、もう一辺は半分ほど縫い、中へ白米を入れて閉じます。

◎普請ふしん

「家の普請」といえば、家の改築か新築のこと。「道普請」といえば道路工事。要するに、建築や工事を指すことばだが、事の起りはインドに求めることができず、

インドの僧団では、すべての僧を集めて掃除をした。普請の基本條件は、この多くの人の協力、ということにある。やがて中国の禅林ではこのことばが、僧を一堂に集めて作務さむ労役に従事することを指すようになるのだが「普」とは、あまねく、という意味。それに「請」がつくのだから、みんなに呼びかけて協同事業を興す、という意味に解釈したほうがいいだろう。

やがて日本では室町期に入って建築用語に用いられるのだが、これも、建築にはたくさん人間が

秩序正しく協力しあく必要性のために転用されたと考えられる。

要するに、大規模な建築や土木工事には、多くの人々に協力を呼びかけ、秩序正しく事を進める必要があるのだが、そうした基本的条件のことを普請と解釈すればいいわけだ。

しかし江戸時代の武士の役職名「普請方ふしんかた」「普請奉行ふしんぎやう」は、もっぱら建築土木事業の責任職名を指すことばであり、そのころから一般に、普請イコール建築土木のイメージが浸透したものらしい。

〔仏教のことば〕早わかり事典

雑記



▼お礼

お陰様で、皆様にはご迷惑とご心配をお掛けいたしました。が、住職の職務を、何とか果たせるまで

に回復いたしました。ただ、鈍なまった身体が元に戻るにはもうしばらくかかりそうで、これからもご迷惑をお掛けすることがあるうかと思えます。ご容赦のほどよろしくお願い申し上げます。

▼お願い

今号は、少し早めにお盆の特集をさせていただきました。といいますのも、今年は、健康面でお盆の棚経をお参りさせていただけに不安があります。そこで、次の三通りの方法から、できれば①をお選びいただけたら有り難く存じます。勝手申しますが、よろしくお願いいたします。

- ① 七月あるいは八月の月参り時に
 - ② 七月盆で（7月13日～15日）
 - ③ 八月盆で（日程は調整）
- ◆生命いのちありよくぞ今年も

夏よもぎ 沐魚